

キャロルの祭典の歌詞と発音の指導資料

2004/07/18 安倍富士男

Christmas Carol(キャロルの祭典)より第2曲 Wolcum Yole!(たのしいクリスマス)

Wolcum Yole! ウォルクム ヨール クリスマスよ、やって来い

be thou hevene king,	あなた様が天の王であられますように
ベー スー ヘベネ キング	
born in one morning,	ある朝お生まれになられた
ボルン イン オーネ モルニング	
for whom we sall sing!	そのお方のために歌いましょう
フォル フォーム ウェ サル スィング	
Thomas mater one,	聖者トーマス、母なる神よ
トーマス マテル オーネ	
seintes lefe and dere,	愛すべく親愛なる聖者たちよ
セインテス レーヴェ アンド デーレ	
Candel messe, Quene of bliss,	ろうそくのミサ、歓喜に満ちた女神
キャンデル メッセ、 クェーネ オフ ブリス	
bothe to more and lesse.	とにかくにもそのどちらにも
ボーゼ トー モーレ アンド レッセ	
be ye that are here,	この地にましますお方となられますように
ベー イー サット アーレ ヘレ	
Wolcum alle and make good cheer.	全てを歓迎しましょう、喜びましょう
ウォルクム アッレ アンド マーケ ゴードゥ チェール	
Wolcum alle another yere, another yere,	新しい年を、新しい時代を歓迎しましょう
ウォルクム アッレ アノーゼル イェーレ、アノーゼル イェーレ	

1 歌詞は、sall (shall) の形から、確かに 13 - 14 世紀の、おそらく英国北部のもの。

ただし、mater のようなラテン語も入ってます。

2 Wolcum Yole (Welcome Yule) 「降誕祭を歓迎しましょう」、つまり、「クリスマスよ、やって来い」といったところでしょう。wを、「ヴォ(ルカム)」のように読む読み方が間違いとはいえませんが。英国北部ではしばしば、v と w が混同されることもあるそうです。Middle English(中期英語)風に読んで、読みと意味をつけました。